

# 土 壌 処 理 菌 N - 2

10kg 入



**N - 2** (アガリエ菌) はバイオ技術で作られたカビ性と、微生物性の二つの形態を持つ特殊放線菌です。強い環境制覇力を持ち、モンパ、根こぶ線虫、青枯れ等の病害菌・虫の防除に役立ち、土壌が改善し生産性の向上に寄与します。

## N - 2 (アガリエ菌) による土壌病害菌・虫処理の仕方

土壌中の病害菌・虫の処理の場合は**N - 2**の栄養源である粉末状の有機質肥料 (鶏糞・牛糞・豚糞) を粉末のまま均一に畑土壌に鋤きこみ、**N - 2**を、土壌表層に10kgを40坪～60坪にまき2～3日放置しその後水打ちを行います。雨を待つか又は、降らない場合は水を少し多めに撒きます。水打ちされた**N - 2**はカビ菌からミクロな微生物に変わり有機質肥料を栄養源に土壌中の病害菌・虫の処理を行います。病害菌・虫の多い畑の処理は有機質肥料を多めにご使用ください。(ハウスの場合も同じです)

☆粉末の有機質肥料としてバイオフォースN-1Bを鋤き込むと、なおいっそうの効果があります。

## N - 2使用についての注意事項

1. N - 2施用後の播種、移植は3～5日以上の間を置いてください。
2. 粉末の有機質肥料を使用のこと。粉末状の肥料は土壌に鋤き込んだ場合土壌と均一に混ざるため全体的な処理が可能です。ペレット状の肥料ではそれが出来ません。
3. N - 2施用後、作物病害根処理の場合は15～20日以上の間を置いてください。
4. 植付け後の処理はN - 2 (10a / 50～70kg) を土壌表層にまき、水を充分にかけます。



## 土壌処理菌N-2の使用説明

N-2 (アガリエ菌) はバイオ技術で作られたカビ性と、微生物性の二つの形態を持つ特殊放線菌です。強い環境制覇力を持ち、病害菌・虫の発生しない環境を作り出します。10kg 当たり 40坪～60坪を目安に使用します。

- ◆ 商品保存中はカビ性の形態で保存されており、長期間の保存が可能です。
- ◆ 微生物に戻す場合は、散布後、水打ちを行います。
- ◆ 土壌病害菌・虫の種類を問わず処理できます。
- ◆ 年1度の使用で、強い環境制覇力で病気の発生しない環境を作り出します。

### N-2 (アガリエ菌) による土壌病害菌・虫処理の仕方

土壌表層上の土壌病害菌類処理の場合はカビの性質を利用します。

土壌表層に薄く10kg 当たり 40坪～60坪にまき、2～3日放置します。N-2が土壌病害菌に付着し処理します。

土壌中のセンチウ類・モンパ菌・病害虫類の処理の場合は微生物の性質を利用します。N-2の栄養源である粉末状の有機質肥料 (鶏糞・牛糞・豚糞) を粉末のまま均一に畑土壌に鋤きこみ、N-2を、土壌表層に10kg を40坪～60坪にまき2～3日放置しその後水打ちを行います。雨を待つか又は、降らない場合は水を10坪当たり30%位撒きます。水打ちされたN-2はカビ菌からミクロな微生物に変わり有機質肥料を栄養源に土壌中の病害虫の処理を行います。病害虫の多い畑の処理は有機質肥料を多めにご使用ください。(ハウスの場合も同じです)

### 果樹等の立ち木処理の仕方

N-2 10kg 当たりを500%の水に溶かし、2時間後から使用します。立ち木全体にN-2溶液をふりかけます。微生物のN-2が湿気を利用して樹皮内部まで浸透し、病害菌・虫の処理をします。(葉面散布の場合は1kg 当たり 500%を目安に水に溶かします)

### N-2使用についての注意事項

1. 散布後、耕起してはいけません。(土壌表層の糸状菌の処理が出来ないので)
2. 粉末の有機質肥料を必ず使用のこと。粉末状の肥料は土壌に鋤き込んだ場合土壌と均一に混ざるため全体的な処理が可能です。ペレット状の肥料ではそれが出来ません。
3. 水にあたらしたら直ちに苗を植えたり、種を蒔いたりしても良く、また土を動かしても良いです。